

表紙は語る 表紙は語る



まあ表紙とはなんの関係もないと言えない、あると言え（ほんのちょっとは）ある、ということで、今月は7月につま恋で行われたApBankFesについて書こうかと思えます（第一回にTICAさんと参加した例のフェスです。あれから二年にもなるんですね〜）。「音楽が地球のためにできること」をテーマに、今年はその第三回目。7月14、15、16日の三日間同じつま恋で開催を予定し、毎日ゲストの顔ぶれは変わり、その全てにコーラスを付けたりミスチルとして参加したり、一日7時間計21時間、桜井くんはステージに出ずっぱり・・・のはずでした。



それが季節はずれに襲ってきた台風の影響で14、15日は中止、最後の16日だけかろうじて開催されるという心残りのある結果となってしまいました（その当日の朝は新潟で地震が起きた日でした）。行く予定はなかったものの、中止となった二日間に参加するはずだった人たちの気持ち、主催者としての桜井くんの想いについつい入り込み、どんなに残念だったろう、どんなに楽しみにしていたらろうと、考えてしまう自分がいました。桜井くんはフェス終了後、行けなかった人に対する言葉を求められ、あきらめるといこともまた選択肢のひとつであるといつも歌ってきたミス

チルのボーカリストらしく「それは仕方ないですね。そういうこともある。僕も悔しいとしか言えない」と語っています。自然との共生を目的とし、その自然の猛威を真っ正面から受けた今年のフェス。「練習しまくった曲は演奏されず、予想されていた収益もなく、大きな赤字となった」フェス。けれど「どんなに悪い状況になっても楽しめる自分をスタンバイさせておきたい」と改めて認識させてくれたフェス。

ネガティブなところからこそ、ポジティブもまた始まると、かれはいつも身を持って教えてくれるみたいです。わたしたちファンもかれに見合う柔らかい心を持たねば(^.^)

今年はミスチル15周年。その記念の年に行われているツアーでも6月の札幌公演の急遽延期があり、そしてフェスの二日間中止があり、なんだっすんなりいくことのないバンドだなあとと思います。ファンはいつもやきもき心配しなくちゃならない。桜井くんは言います。「ハプニングやトラブルがあり、それも含めて全体のバランスがとれているような気がする」。J-POPの世界で大成功をおさめ、その勢いをまだ持続しているミスチル。みんなが大好きなミスチル。その多大なプラス面を桜井くんという人は自身のスキャンダルや病気、数々の大小のアクシデントなどのマイナス面で律義すぎるくらいきちんと返済してきたように見えます。そして「痛っ!」という経験もなにもかもが縋り交ぜになって、新しいミスチルの歌が生まれてくる、そんな気がします。

ところで、このフェスのオープニングのために桜井くんが作った歌があります。参加しなかったわたしはもちろんまだ聴いてはいないのだけれど、誰かにこんなふうに言われたらどんなに幸せだろうと思います。

「いろいろあったんだろ?」と誰かに聞かれない。

そしてわたしも誰かに答えたい。「だけどころしてまた会えたんだよ」。

よく来たね

よく来たね 大変だったんじゃない?
遠方まで疲れちゃったんじゃない?
こんなにいいお天気だから
今年もいっぱい遊ぼう
よく来たね いろいろあったんだろ?
悲しいこと嫌なこと辛いこと
だけどころしてまた会えたんだよ
笑顔をいっぱいつくろう
ちょっと変わったね 垢抜けたかな?
少し大人になったかな?
うまく言えないけどすごく素敵だよ
じゃあ僕はどう?
あつ別に答えなくたっていい いいや

ちょっと変わったろ?
あれから少し優しい気持ちでいられるから
うまく言えないけど
君も同じように暮らしていると
なんとなく考えてたんだ
それが当たってたらいい
よく来たね 大変だったんじゃない?
遠方まで疲れちゃったんじゃない?
こんなにいいお天気だから
今年もいっぱい遊ぼう
笑顔をいっぱいつくろう

一日だけの開催でつま恋に残した思いからか、かれらはすでに「またやりましょう」と次の約束をしています。どうしよう?こんなふうに歌ってくれるなら来年は行っちゃおうかな。7月の日差しは老体に堪えるけどなんとかかならないことも・ないかもしれない(不安・)。今「HOME」に辿りついたかれらは来年の今頃はまた家を飛び出してどこかを彷徨ってるかもしれないじゃない?

9月には日産スタジアム2Days。アクシデントもなく無事ミスチルと会えますように。なむなむ。